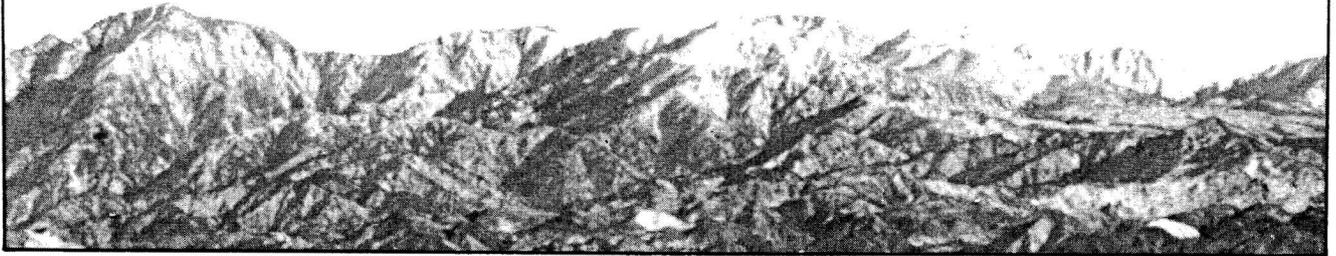


富山大学 学報



(題字 大井信一 学長)

第291号

目 次

関係法令	2	海外渡航者	4
諸会議	2	富山大学職員成人式	5
学 事	3	シリーズ「富山大学、あの日あの頃」(15)	
昭和63年度共通第1次学力試験の実施	3	老生の追憶 その4	5
人事異動	3	職員消息	7
学内諸報	4	主要行事	7
附属図書館長の改選	4		

関係法令

告 示	改正する件（郵政30）	1・20
○外国あて通常郵便物の送達等に関し外国 郵政庁で定める条件に関する件の一部を 改正する件（郵政29）		1・20
○外国あて小包郵便物の送達等に関し外国 郵政庁で定める条件に関する件の一部を		
	官庁報告	
	○日本学士院会員候補者の推薦について （日本学士院）	1・11

諸 会 議

昭和62年度第11回入学試験管理委員会・第8回入学者
選抜方法研究委員会の合同委員会（1月12日）

（審議事項）

- (1)昭和63年度富山大学入学者選抜学力検査実施要項
（案）について
- (2)昭和63年度富山大学入学者選抜健康診断実施要項
（案）について
- (3)昭和63年度富山大学入学試験関係行事予定表(案)
について

昭和63年第2回公開講座委員会（1月14日）

（議 題）

- (1)「健康・スポーツ—硬式テニスコース」の実施に
ついて
- (2)昭和63年度公開講座の実施計画について

構内交通対策委員会（1月19日）

（議 題）

- (1)構内交通規制に関する暫定要項等の改正(案)につ
いて

昭和62年度第11回評議会（1月22日）

（審議事項）

- (1)附属図書館長候補者の選考について
- (2)昭和63年度富山大学入学試験の実施について

昭和63年第3回公開講座委員会（1月25日）

（議 題）

- (1)昭和63年度公開講座の実施計画について

昭和62年度第3回施設整備委員会（1月27日）

（議 題）

- (1)黒田講堂の改築(案)について

昭和62年度第5回附属図書館商議会

（審議事項）

- (1)次期図書館長候補の決定について

昭和62年度第8回事務協議会（1月29日）

（議 題）

- (1)当面の諸問題について

学 事

昭和63年度共通第1次学力試験の実施

昭和63年度大学入学者選抜共通第1次学力試験が、去る1月23日(土)、24日(日)の両日にわたって全国一斉に実施されました。共通第1次学力試験が始まって以来本年は第10回目です。

富山県内では、志願者が5,239名(男3,283名、女1,956名)あり、富山大学で4,249名(男2,781名、女1,468名)、富山医科薬科大学(富山中部高校で実施)で990名(男502名、女488名)の2会場において、それぞれ実施されました。

本学では、共通第1次学力試験実施委員会で計画された実施体制に基づき、五福地区6試験場において大

井信一学長を実施本部長とし469名の教職員が試験に携わりました。

23日の晩から翌朝にかけて20cm程度の降雪がありましたが、構内外共に、万全の除雪体制により、雪による影響は無く、初日は、国語、理科の2教科、2日目は、数学、外国語、社会の3教科を予定どおり終了しました。

本年度は、昨年度に比べ全国的に志願者、受験者共に増加し、本学も、志願者で98名、受験率で2%程度の増加が見られました。

なお、本学関係の受験状況は、次のとおりです。

	国 語	理 科	数 学	外 国 語	社 会
志願者数	4,249	4,249	4,249	4,249	4,249
受験者数	4,121	4,072	4,071	4,116	4,046
受験率(%)	97.0%	95.8%	95.8%	96.9%	95.2%

(入学試験係)

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	63. 1. 5	平 田 賢 治		技術補佐員(経理部主計課)	富山大学長
	〃	北 野 哲		技術補佐員(経理部主計課)	〃
	〃	富 樫 昇		技術補佐員(経理部主計課)	〃
	63. 1. 11	寺 島 和 裕		事務補佐員(附属図書館)	〃

(任用係)

学 内 諸 報

附属図書館長の改選

平田 純附属図書館長の任期が、昭和63年2月19日で満了することに伴う、次期附属図書館長候補者の選考は、1月22日開催の評議会において、図書館商議会から推薦のあった3名の本学教授のうちから投票によって行われ、理学部小嶋學教授が選山されました。任期は、昭和63年2月20日から2年間。

小嶋教授は、昭和26年3月名古屋大学理学部生物学科卒業、35年7月名古屋大学理学部助手、52年1月同学部助教授、57年4月富山大学理学部教授、60年4月から附属図書館商議員として、現在に至っています。専門は環境生物学、愛知県出身。 59歳



(附属図書館)

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
海外研修旅行	教養部	講師	筒井 洋一	ドイツ連邦共和国	戦後西ドイツ外交に関する研究	63. 1. 5) 63. 1. 20
	教育学部	教授	永野 弘	アメリカ合衆国	全米冷凍空気調和学会に出席	63. 1. 30) 63. 2. 5
	経済学部	助教授	澤野 雅彦	大韓民国	韓国企業の経営に関する資料収集	63. 1. 30) 63. 2. 5

(学事調査係)



昭和63年富山大学職員成人式

昭和63年富山大学職員成人式が、去る1月13日(水)学長室において行われました。

式には、新たに成人となった3名と学長、事務局長、庶務部長、庶務課長及び事務長が出席し、学長から記念品として、新成人一人一人に「自彊不息」としてのされた色紙(大井信一学長揮毫)に額を添えて授与され、引き続き学長の祝辞がありました。これに対して新成人を代表して、庶務部庶務課の草島伸雄君から「一人

前の社会人として責任と自覚を負うこととなりますが、一生懸命頑張りたい」旨の答辞がありました。

閉式後、学長室で新成人を囲み懇談会が催され、和やかな雰囲気うちに終了しました。

新成人は次のとおりです。

庶務部	草島伸雄
工学部	桐 昭弘
附属図書館	塚本真理



シリーズ「富山大学、あの日あの頃」(15)

老生の追憶 その4 (石井逸太郎先生の追憶)

富山大学名誉教授の会 溝上 茂夫

死者は生者が追憶する度毎に甦って語りかける。この時幽明の境は消え失せる。先輩は後輩の、恩師は教子の追憶によってその生を永続し発展させる。ダンテの神曲もそうになっている。地獄の中で詩人に子供のころの師ブルネット・ラティニーが現れて「我が麗わしき日に汝につきて思い定めしことたがわずば、汝は汝の星に従って行く限り、遂に栄光の港に至ること疑いなからん。」と漂泊の詩人を励ます。追憶は単なる昔話とは限らない。これは新鮮なる創造をも妊む。私の追憶はプラトンの想起アナムネシアのもうひとつの形式とも思われる。

石井逸太郎(1889-1955)

生年月日 明治22年1月3日

本 籍 熊本県

大正12年3月 東京帝国大学理学部地理学科卒業

昭和24年5月 富山師範学校講師

同 26年3月 富山大学教育学部教授

同 29年8月 理学博士

同 30年6月 富山大学評議員併任

同 30年8月28日 頭部胸部挫傷により災害死
享年67才



記憶を辿れば石井先生は東大ご卒業の前は東京高等師範学校地理学科をご卒業、更に溯れば熊本県師範学校をご卒業になった。約1世紀続いた師範の名は新制大学の発足と共に消滅したが、この師範の名は今も弓道の中にそのまゝ、生き続けている。オイゲン・ヘリゲルがその著「弓の禪」の中に師範とは何かについて立派エコール・ソルマール・スプリウールに書き残している。フランスの高等師範学校は最高学府として今も輝き続けている。歴史を持つ名称と精神は消滅してもその心は完全に消滅することはない。

石井先生ははじめ小学校教育を志された。そして私は石井先生を思い出す時、いつも近代地理学の祖、その心敬處にして郷土教育に熱心であったカルル・リッター（1772～1859）を想起し、カルル・リッターを思い出す時は石井先生を思い出す。リッターはペスタロッチの小学校に学び、地理学については何の知識も持ち合わせない彼から学習指導を受けた。指導というよりも師弟の共学である。学者から学ぶよりもこの方がよかった。正に教育の逆説である。リッターはほとんど毎日のように父（児童らはペスタロッチをこのように呼んだ。）と共に野外に出て、川の珍しい小石を拾い集め、丘に登っては眼下に広がる郷土の地形を見下ろす。学校から帰ってからはその小石を特徴にしたがって整理し、また、粘土で村の地形の模型を造って厭きることを知らない。教科書は生きた自然そのものであった。そしてこの自然こそ最高のテキストであった。

しかし、早くも岩石学や地形学の萌芽がそこにあった。我が石井先生の幼時もこれに似ていた。

後年の大地理学者も始めはやたらに熱心なだけで、その折角の研究も基礎をわきまえず、方向も定めなくただ渾沌のうちに徧っていた。この時リッターはこの無知の指導者の素朴な教授法の中に科学としての地理学のエスプリと根本原理の生きていることに気づき、これに基づいて遂にあのすばらしい学にまで高めた。

大成したリッターのペスタロッチに対する感謝の念に充ち溢れた告白の通りである。いかにもペスタロッチが「小学校教師の技術は最も単純素朴な技術であるが、これは最高の技術である。」と道破したのも宜なるかなである。私自身も地理学に関しては恐るべき無知者ではあるが、ペスタロッチ、カルル・リッター、そして石井逸太郎先生の地理学に対する畏敬の念を持っているだけのためにこれだけのことを云わされる。お、よそ如何なる学もそれぞれに固有精神を持っていて、それは始祖以来、末に至るまで一貫したものである。

私の弓道練習時、長谷田裕作師範は語られた。私が高校生の時、地理学が好きになったのは石井教授のおかげで、かようにして、藤井昭二・深井三郎教授が育った。先生は文字どおり富山地学会の祖である。

石井逸太郎先生の理学博士の学位は前記の通り昭和29年8月であった。当時は大学でも学位はまだ珍しかった。当時は大学でも文科系だけでなく理科系でも、実力はあってもそんなものを取っておこうという気を起こす者も少なかった。この時教育学部は学部を挙げて祝った。この際の情景は今も私の目に浮かぶ。先生は起立して謝辞を述べる途中、感極まって涙された。ただひとこと「もし家内が今生きていてくれたら…」常に鯉のように八の字に口を閉ざす寡黙の教育者、九州男の涙のことば。

石井先生とは通勤の途中よくいっしょに市内電車に乗った。私は席を選ばない。先生はいつも席をお選びになる。不思議に思ってお尋ねしたところ、その答えは「僕はいつも立山に向って坐り、これに尻を向けない。」であった。この時私は先生の影響を受けた。

先生にとって立山はかの聖なる山であった。「われ山に向いて目を挙ぐ…」旧約の詩篇の一節は先生の全存在の中に生きていた。南国生れの一教育者が終生立山を愛し、この地理学者が立山研究に生涯を捧げた等と語るはむしろ贅言に属する。略歴には頭部、胸部挫傷による災害死とある。これは医師の死亡確認の診断書の転記に過ぎない。石井先生は研究のために立山に登り、脚を踏み外して雪溪の穴に入りこみ、殉職死を遂げた。

先生のご遺体は職員と学生たちに守られてご自宅にお帰りになった。夏の日の真夜中であった。戦後はどの家も大同小異の茅屋。しかしお宅の前は戦禍の焼け跡のまゝ、でおのづから広い前庭をなしていた。幾十もの豆電球の光が輝いて茅屋を浮かび上らせ、いかにも高潔なる老教師にして学者の棺を迎えるに相応しく、

殿堂のように荘厳であった。

私が、父の遺体を待つお嬢様に近づいてただ「溝上です。」とだけ細声をかけると、お嬢様は「父は夕食の時、いつも先生のことを話していましたのでよく存じ上げております。」とおっしゃった。

家庭は、ただ父と娘の二人だけの語らい。これで私は万事を察した。そしてこの時これ以上に言葉は交わさ

なかった。「芸術において、類縁の精神が合一するほど世にも神聖なものはない。」（岡倉天心「茶の本」）しかしこれは芸術だけのものであろうか。

写真は教育学部 実 清隆、相馬恒雄、教養部 藤井昭二先生提供「富山県地理学論集」第8集、昭和59年3月、富山地学会編より。

職 員 消 息

《新任者》

工 学 部

講 師 小原 治樹
(制御機器)

工 学 部

助 教 授 上羽 弘

《住所変更》

理 学 部

助 教 授 山田 恭司
(細胞生物学)

主 要 行 事

本 部

- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| 1月4日 | 御用初め | 14日 | 第2回公開講座委員会 |
| 7～13日 | 在来生合宿研修 | 18日 | 学園ニュース編集委員会 |
| 8～9日 | 臨時東海・北陸地区国立大学学生部次長・
教務部長会議（於：名古屋大学） | 19日 | 昭和63年度一般設備等説明
構内交通対策委員会 |
| 12日 | 入学試験管理委員会・入学者選抜方法研究
委員会の合同委員会 | 20日 | 教育担当記者との懇談会 |
| 13日 | 富山大学職員成人式
共通第1次学力試験の監督者説明会
臨時健康診断（寒中水泳参加者） | 22日 | 第11回評議会 |
| 13～14日 | 昭和62年度東海・北陸地区国立学校等施設
系職員研修会
（於：岡崎国立共同研究機構） | 23～24日 | 共通第1次学力試験 |
| | | 25日 | 第3回公開講座委員会 |
| | | 26日 | 東海北陸地区国立学校等施設整備打合せ会
昭和62年度国立大学学生部長会議
（於：如水会館） |
| | | 27日 | 会計係長会議 |
| | | 29日 | 昭和62年度第3回富山大学施設整備委員会
部課長会議
第8回事務協議会 |

人 文 学 部

- 1月6日 係長連絡会
 8～20日 大学院人文科学研究科入学願書受付
 11日 授業開始
 13日 施設委員会
 予算委員会
 14日 係長連絡会
 19日 教務委員会
 20日 教授会
 人文科学研究科委員会
 真率会総会（於：富山第一ホテル）
 27日 将来計画委員会
 28日 大学院人文科学研究科入学志願者調査書審査
 29日 婦人科検診

教 育 学 部

- 1月8日 授業開始
 附属小学校，附属中学校，第3学期始業式
 11日 附属養護学校 第3学期始業式
 12日 附属幼稚園 第3学期始業式
 13日 教務・補導合同委員会
 教務委員会
 14日 情報教育課程設置準備委員会
 16～22日 附属小学校，附属中学校 入学願書受付
 20日 教授会
 人事教授会
 カリキュラム委員会
 21日 情報教育課程設置準備委員会
 28日 情報教育課程設置準備委員会
 31日 附属中学校入学者第一次選考（学力検査）

経 済 学 部

- 1月7日 授業開始（昼間主コース）
 11日 授業開始（夜間主コース）
 11～16日 経済学専攻科入学願書受付
 14日 改組経過報告書作成委員会

- 18日 助手室業務運営委員会
 財務委員会
 20日 学部教務委員会
 人事教授会
 教授会
 21日 改組経過報告書作成委員会
 26日 学部施設整備委員会
 27日 日本海経済研究所運営委員会（持ち回り）
 29日 婦人科検診

理 学 部

- 1月6日 係長連絡会
 11日 授業開始
 14日 係長連絡会
 16～22日 大学院理学研究科願書受付
 20日 教授会
 理学研究科委員会
 人事教授会
 真率会総会（於：富山第一ホテル）
 29日 婦人科検診

工 学 部

- 1月6日 事故対策委員会
 7日 専任教授会
 温交会総会及び新年祝賀交歓会
 8日 学部改革検討委員会
 9日 選考委員会
 9～16日 大学院工学研究科入学願書（2次）受付
 11日 授業開始
 13日 専任教授会
 16日 選考委員会
 19日 学部改革検討委員会
 20日 教官研究分野の公開に関する検討委員会
 （仮称）
 教授会
 工学研究科委員会
 専任教授会
 21日 事務系共通第一次試験説明会
 25日 学科主任会議
 共通機器運営委員会

28日 学科主任会議
29日 婦人科検診

26日 ワーキング・グループ打合せ会
27日 情報処理センターとの打合せ会
28日 第5回附属図書館商議会

教 養 部

1月11日 授業開始
13日 予算委員会
20日 教務委員会
教授会
教養部長候補者選挙管理委員会
21日 機種選定委員会
22日 教養部長候補者選挙管理委員会
27日 将来計画委員会

附 属 図 書 館

1月13日 係長事務打合せ会
14日 係長事務打合せ会
19日 小ワーキング・グループ打合せ会
21日 ワーキング・グループと富士通SEとの打合せ会

トリチウム科学センター

1月13日 富山大学トリチウム科学センター研究審査
専門委員会
26～27日 特別健康診断

保健管理センター

1月13日 臨時健康診断（寒中水泳参加者）
29日 婦人科検診（職員，女35才以上）

経営短期大学部

1月11日 授業開始
14日 あゆみ編集委員会
27日 教授会

訂正（おわび）

学報 昭和63年1月1日発行 第290号

ページ	訂正箇所	誤	正
8	工学部 11日		学部補導委員会
"	" 14日	学部主任委員会	学科主任会議
"	理学部 9日	社会人特別選抜 合格者発表	社会人特別選抜 学力検査
9	附属図書館 24日	附属図書館商議会	附属図書館商議会
"	トリチウム科学 センター 25日	御用初め	御用納め





編 集	富山大学庶務部庶務課 富山市五福3190
印刷所	あけぼの企画株式会社 富山市住吉町1丁目5-18 電話 (24) 1755(代)